

認定心理士の会から

新刊連動講座スタート！

この度、日本心理学会 認定心理士の会では、新刊連動講座を始めます。認定心理士の会会員および日本心理学会会員を対象として、マインドフルネスやいじめ、その他諸々、注目が集まるテーマで、出版したての日本心理学会会員の著者がその本の解説講座を2～3時間程度でZoomを使って実施するという企画です。その本を教科書とし、購入者を対象とします。書籍を購入はしたものの積んだままということがなくなり、参加者の理解度が深まることが見込まれ、心理学関連書籍への関心が一層高まることが期待されます。その本を購入しようか迷っている方も参加できます。講座の途中に割引購入のご案内ができる場合もあります。

記念すべき第1回は、『恋の悩みの科学』（松井豊編著、福村出版、2023年3月5日発行、ISBN 978-4-571-25061-3、本体1,800円＋税）です。詳細は下記のサイトから。

<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai-book/>

なお、認定心理士の方が参加する場合は、認定心理士の会（無料）もしくは日本心理学会への入会が必要となります。是非この機会にご入会をご検討ください。

「認定心理士の会」へ入会ご希望の方は、jpa-ninteinokai@psych.or.jpまで、件名を「認定心理士の会入会」とし、①認定心理士登録番号（認定番号）、②氏名、③電話番号、④メールアドレスの4つをお知らせください。

日本心理学会会員で最近刊行予定の著書があり、新刊連動講座をしてみたいという方は、認定心理士の会新刊連動講座担当（jpa-book@psych.or.jp）へお知らせください。

（認定心理士の会運営委員会委員 河原純一郎）

若手の会から

環境の変化、差異、発展可能性

昨今の変化は目まぐるしく、せわしない毎日のように感じられます。みなさまいかがお過ごしでしょうか。国内の研究環境においてもここ5年でさまざまな変化があったろうと推察されます。たとえば、オープンサイエンスや再現可能性問題への取り組み、感染症対策・オンラインでの研究体制の構築、人工知能（AI）への向き合い方、といったものが挙げられます。

一般に、環境の変化とともに、個人の価値観や行動も変化するものですが、それが必ずしもあらゆる場所で一様に起きるわけではありません。言うまでもなく環境への適応能力については個人差があり、その個人が集まった集団や組織においても、反応パターンの違いがあらわれます。昨今の世界レベルの変化は、そうした反応性の違いを浮き彫りにしたように思えます。

心理学の初期キャリア研究者としては、変化への対応策について分野の差・世代の差が浮き彫りになり、偏りや断絶が強まる可能性を危惧しています。人には違いがあり、集団にも違いがあります。それぞれの環境適応のしかたについて、「なぜ、そうするのか」「なぜ、そうしないのか」「なぜ、そうせざるを得ないのか」、そのパターンに至った背景を知ることが重要でしょう。そうして、今まで交流のなかった分野同士が、危機をきっかけに関わるようになれば、それは進歩であり、発展の可能性を高めると思います。

確かに混迷の時代ではございますが、もともと人は自分の損得に関係ない話に無理解なものです。幅広い分野を内包する総合学会である日本心理学会を通して、個々の価値観を広げ、それぞれの利益を創出するやり方を構築できれば最善ではないでしょうか。

（若手の会幹事 上野将玄）